

県立和歌山高等学校

実施日時	令和2年10月16日(金)、11月6日(金)、12月11日(金)
参加者	生徒463名、教職員41名、計504名
実施内容	防災講話

ねらい

- 1 自然災害等の現状及び減災等について理解を深め、現在及び将来に直面する災害に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意志決定や行動選択ができるようにする。
- 2 地震、台風発生等に伴う、危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動ができるようにするとともに、日常的な備えができるようにする。
- 3 自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できるようにする。

主なプログラム

災害講習(講演)

概要

今年度、コロナの関係で3学年一斉に集めることやグループワークなどできないため、1学年ごとに講演をしてもらった。講師として日本赤十字社和歌山県支部防災減災セミナー講師橋詰順規さんに来ていただいた。地震や津波、大雨、災害から命を守るための心構えや行動、日頃の備えについてパワーポイントを用いた具体的な内容の講演であった。また、災害時にスマートフォンをランタンとして使う簡易ランタンなどの紹介もしていただいた。

参加者感想文

- 1年 男子
僕はこの学習をして大事なことが分かりました。きちんと防災訓練をしておかないと学校で地震があった時、逃げるできないんだと思いました。だから、防災学習は大切だと思いました。
- 2年 女子
知らなかった備蓄の方法を知ることができたのが一番よかった。今までしてきたことにプラスして今回学んだことを生かして備えて行きたいと思います。
- 2年 女子
防災スクールを通して改めて災害の怖さや、備えることの大切さを学びました。私は、大きな災害にあったことがなくて、あまりピンとこないところも多いですが、他人事だと思わず、自分に当てはめて考えたいと思います。

成果と課題

【成果】

- 近い将来、和歌山県でおこるとされる地震、津波に向けて、自助、共助、公助の大切さを知ることができた。
- 危険を理解・予測し、自らの安全を確保するための行動について考えられるようになった。また、日常的な備えの必要性について学んだ。

【課題】

- 今回の学習は講演のみだったので、受け身の学習になってしまい、グループワークなどを通じた体験的な学習ができなかったのが、残念である。
- 今年度はコロナの影響で保護者、地域住民の方の参加の声かけができなかった。今後もこの状況がどうなるかわからないが、保護者や地域住民の方々と共に地域の防災について考えていく必要がある。

